

---

# 死後の夢

タイヨウ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

死後の夢

### 【Zコード】

N4317C

### 【作者名】

タイヨウ

### 【あらすじ】

突然現れた少女の突然の宣告。あなたは既に死んでいる。不幸な少年の死後を語った第一話。

## 第一話・俺って死んでた？

ああ眠い。

眠すぎる。

何故こんなに眠いんだ。

知ってる奴がいたら誰か教えてくれ。

夜更かしした覚えは無い。

早起きした覚えも無い。

何か眠気が吹き飛ぶようなことは無い。

バシイイイイイ

平手が左の頬を捉えた。

眠気が吹き飛んだ。

眼鏡も吹き飛んだ。

痛え。

飛んでいった眼鏡を回収し、痛む頬をおさえつつ席に戻った俺は、飛んできた平手の主に理由を聞いた。

「できれば殴つた理由を教えて頂きたいのだが」

「殴つてない。叩いた」

「似たようなもんだ」

「眠そうな顔が瘤に障つたから」

「……そうかい」

理不尽だ、そう思つたが口にはしなかつた。

キーンコーンカーンコーン

授業開始のチャイムが鳴つた。

「」」」」で自己紹介を。俺は神原諒。中一。男。眼鏡。以上。

## キーンゴーンカーンゴーン

授業終了のチャイムが鳴った。

4限目という地獄を（寝て）突破した俺は、給食の準備を始める。準備が出来、食べ始める。

「でさー、月九のドラマは？」

「だよねー、やっぱ」

どうでもいい女子のどうでもいい会話が耳に入る。ビリでもいい会話だけ聞こえなくなる耳栓はないかな。ないな。そんな時、友達のやはりどうでもいい一言。

「神崎いー。一発殴らして」

殴る動作を交えて聞いてくる。

「無理」

一応友達なので一応返しておく。

「こいつは浜富。小学校からの友人。

「まあ冗談はそこらに置いといでだな、お前あいつと何話してたんだ？」

「あいつって？ああ、姫崎か。少なくともお前が期待してるような事じゃない」

「またまたー。神崎君ったらテレちゃつて」

前方の女子が口を出し始めた。確かに中村とか言つたつけ。

「……」

「どーせさつきのも痴話ゲンカだつたんでしょう？」

「いつから付き合つてることになつたんだ。」

さすがに腹が立つた俺は言い返そうとして

。

バシィィィィイン

本日2発目のビンタ。さつきより威力が大きい気がする。

「妙な話をするんじゃない。」

この地獄耳め。というか、俺じゃない。コイツらだ。だが、言つたところでどうせ無駄なので言わない。

姫崎はビンタだけして自分の席に戻つていった。

「大丈夫か?」

「えっと……あの……お氣の毒に」

浜宮だけは許さない。姫崎級のビンタを喰らわすまで許さない。結局、（若干一名を除く）同情モードのまま給食の時間が終わつた。

この後、いろいろあつたがとりあえず6限まで切り抜けた。

今日のビンタ数・・・五  
察してくれ。

そして帰宅。マイルームへ直行。ドアを開く。・・・閉める。もつかい開ぐ。さつきと変わらない光景がそこにあつた。

何故か、姫崎が俺の部屋に居た。このやろづ、ベッドの上に我が物顔で居座つてやがる。

「どうか、何故? どうか。こついう時は本人に聞くのが一番だな。なんでお前がここにいるんだよ?」

「伝えるため」

「何をだ」

「真実を」

「はあ? 散々人の事叩きやがつて今更何を」

ボグオツ!!

今度はグード。

「こめかみが……。」

「黙つて話を聞く」

「はい……」

立場弱いな、俺。

「まず、あなたは既に死んでいる」

「は……え?」

どつかのつぼ押し格闘家のようなことを口に出した。

「この世界は、あなたが見ている夢」

「夢といつても、入ってきている情報は現実と同じ」

「私の仕事は、あなたの田を覚まさせ、魂を導くこと」  
「急に死んでいるとかこの世界は夢だとか言われて、理解出来るま  
うがおかしいと思つ。

「導くつて……どいへ?」

「ゴッド・クラウド」

「神の居所」

「ゴッド……なんだつて?」

「本来は平手一発で田が覚める。でも……あなたは違つた  
またもや無視か……」

「仕方が無いので強行手段をとる」と決まった

「……」

「あなたを直接現実へ連行する。……との事だ」

「待てよ。俺の意思は

「関係ない。行くぞ」

そこで俺の意識は途絶えた。

## 第一話・俺って死んでた？（後書き）

えと、タイヨウです。

まだ、学生ですか、未熟なところもあるとは思いますが、なにとぞ宜しくお願ひいたします。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4317c/>

---

死後の夢

2011年1月16日01時08分発行